

目次		Corporate direction		環境		社会性		ガバナンス		データ集	
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン	製品安全および品質	サプライチェーンマネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献		

# 交通安全

## 交通安全の方針・考え方

クルマが広く普及したことで私たちの暮らしは大きく変わり、多くの人々がモビリティによる自由や利便性、そして運転する楽しさを享受してきました。近年の自動車業界の技術革新はめざましく、自動運転やそれを構成する運転支援技術は急速に進歩しつつあります。高齢化、高度な都市化の進行など、世界は大きな転換期を迎えています。クルマの技術革新は、都市における渋滞の解消や高齢者が安全で円滑に移動できる社会の実現など、さまざまな課題の解決に貢献することが期待されています。

日産は“走る楽しさと豊かさ”を体現するクルマづくりに取り組むとともに、リアルワールド（現実の世の中）における高い安全性を提供します。

交通事故の原因の9割以上が人為的ミスといわれる中、日産は日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現に向け、事故そのものを減らすための取り組みを進めます。

## 交通安全のマネジメント

2022年日本の交通事故による死者数は2,610人と2021年より26人減少しましたが、なおも2,000人以上が交通事故で亡くなっています。また、世界保健機関（WHO：World Health Organization）によると、世界全体で交通事故によって毎年約130万人の方が命を落としている状況です。日産は、事故そのものを減らすために、緊急回避性能を飛躍的に向上させる次世代LiDARを活用した技術開発を進めています。また、衝突時の被害軽減・乗員保護のための技術の向上と車両への搭載を推進します。

さらに、クルマの技術開発のみならず、安全運転など交通安全啓発活動を実施していきます。

## 交通安全への取り組み

### 日産の安全技術の拡充と獲得した外部評価\*1

「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」は、日本で発売している電気自動車、商用車を含むほぼすべてのカテゴリで搭載を完了するとともに、主要車種への標準装備も完了しました。北米や欧州でも主要車種に採用しています。また、各地域で行われている公的機関および政府による試験において、高い安全評価を獲得しています。

自動車工業会などの業界活動にも積極参加し、車両安全対策活動や戦略的標準化推進活動を推進し、「インテリジェント エマージェンシーブレーキ」をはじめとしたさまざまな安全技術の「性能評価試験法」の国際基準や国際標準（ISO）の作成にも貢献しています。

\*1 主な外部安全評価結果（2022年評価分）に関する詳細はこちらをご参照ください。 >>> P160

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン	製品安全および品質	サプライチェーンマネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

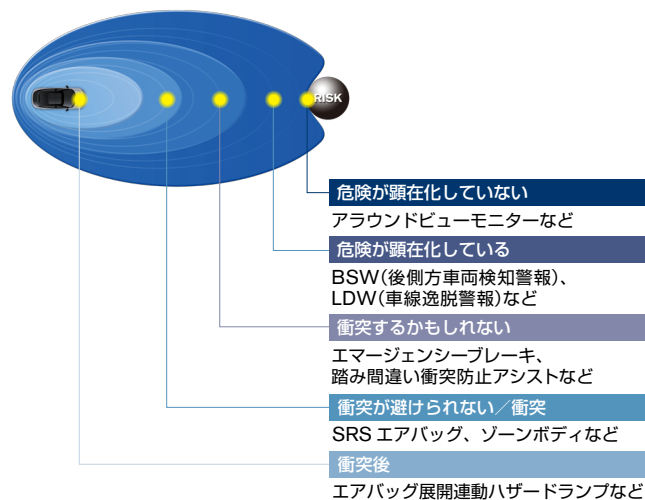
## “ぶつからないクルマ”の実現に向けて

日産は、「セーフティ・シールド」のコンセプトのもと、危険予防から危険回避、そして乗員保護までのトータルな観点で、それぞれのシーンで乗員の安全をサポートします。

例えば、通常走行時や駐車時には、ドライバーが視認しにくい周囲の車両や歩行者などをセンサーやカメラがモニターし、いつでも安心して運転できるようにドライバーをサポートします。

日産は、安全技術を広く迅速に普及させていくことも自動車メーカーとしての使命だと考えています。

### セーフティ・シールド<sup>\*1</sup>



## 運転支援技術：プロパイロットの普及拡大

2016年より製品化した「プロパイロット」は、2019年9月には、新型「スカイライン」のハイブリッド車に世界初の先進運転支援技術「プロパイロット2.0」を標準装備として搭載しました。2019-2020日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいてイノベーション部門賞、RJC カー オブ ザ イヤーにおいてRJCテクノロジー オブ ザ イヤーを受賞するなど高い評価を得ています。

日産は「プロパイロット」の採用をグローバルに、かつ幅広い車種へ広げており、搭載車の販売台数は2023年3月末までに累計227万台を突破しました。

## 緊急回避性能の飛躍的な向上につながる運転支援技術

日産は、将来の自動運転の時代において、お客さまに安心してクルマを使っていただくためには、世の中で起こる多次元に複雑な事故を回避するための運転支援技術が必須であると考えており、クルマの緊急回避性能の飛躍的な向上につながる運転支援技術、グラウンド・トゥルース・パーセプション (Ground truth perception) 技術を発表しました。本技術の開発を2020年代半ばまでに完了させ、順次、新型車へ搭載し、2030年までにほぼすべての新型車に搭載することを目指しています。

## プロパイロット搭載車種

※2023年3月末時点



\*1 個々の技術についての詳細はこちらをご参照ください。日産の安全への取り組み [https://www.nissan-global.com/JP/INNOVATION/TECHNOLOGY/ARCHIVE/SAFETY\\_TDC/](https://www.nissan-global.com/JP/INNOVATION/TECHNOLOGY/ARCHIVE/SAFETY_TDC/)

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン	製品安全および品質	サプライチェーンマネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

## 先進事故自動通報システムSOSコール(ヘルプネット)を設定

交通事故や急病などの緊急時、事故の危険があるとき、あおり運転時などに、専門のオペレーターへのデータ通信と音声通話を行うことができる先進事故自動通報システム「SOSコール」(ヘルプネット)を軽自動車では初めて「日産デイズ」に設定、「ルークス」「キックス」「ノート」「ノート オーラ」「エクストレイル」「セレナ」「日産アリア」「日産サクラ」と、順次採用車種を拡大しています。交通事故などで、エアバッグが作動した際に自動的に通報するものと、SOSコールスイッチによる手動通報の2種類があり、通報後は、専門のオペレーターが車両から得た情報をもとに、消防指令センターや警察に迅速に連絡し、緊急車両の手配などドライバーのサポートを行います。

## NASAの技術を活用した自動運転の人工知能(AI)技術を開発

一般道路での完全自動運転実現に向けた課題解決のため、日産では「シームレス・オートノマス・モビリティ(SAM: Seamless Autonomous Mobility)」と呼ばれるシステムを開発しています。自動運転車による判断が困難な場合に管理者が遠隔操作でルートを作成・指示することで、事故、路上の障害など不測の事態に直面した際でも、クルマを安全に誘導できる手段を提供します。

## 交通安全啓発活動の推進

日産は交通安全活動「ハローセーフティキャンペーン」\*1の一環として、交通事故発生件数が最も多くなる16～18時にヘッドライトの早期点灯をドライバーに促す「おもいやりライト運動」\*2を2010年からリード。市民活動を活用した双方向のコミュニケーションによる安全啓発活動を推進しています。また、運動機能工学を専門とし地域を巻き込み交通安全を推進している、新潟大学の研究室と連携して、2018年に交通安全プロジェクト\*3を立ち上げました。その成果として、2020年3月には高齢ドライバーの安全走行を促進・啓発する「ハンドルぐるぐる体操」\*4を開発しました。そして、2021年3月に新潟大学、北里大学、相模女子大学と共同で、ネットワーク上にバーチャル研究所「交通安全未来創造ラボ」\*5を創設しました。生活や移動に不安や不自由を抱えている一人ひとりに寄り添い、交通死亡事故ゼロの交通社会を実現することを目的としています。

## 「おもいやりライト運動」



主体的に点灯呼びかけアクションを全国で実施

11月10日「いい点灯の日」の前後に、全国(北海道から鹿児島まで96カ所)にて主体的に点灯呼びかけアクションを行いたいと声を上げていただいた皆さまをサポートしました。また、「TRY-LIGHT CHALLENGE 報告会」を12月に開催しました。各地から、点灯呼びかけアクション方法の工夫などをシェアし励ましあうことで、新たな気づきが生まれる時間となりました。



「TRY-LIGHT CHALLENGE 報告会」

\*1 「ハローセーフティキャンペーン」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/>

\*2 「おもいやりライト運動」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.omoiyari-light.com/>

\*3 交通安全プロジェクトトロン・セーフティ・イニシアティブ-まち・生活・交通の安全な未来へ-ToLiTon(Town, Life and Transportation) Safety Initiative従来の交通安全の枠にとどまらず、「まち・生活・交通」を結び提案を目指すことから命名したプロジェクトです。

\*4 高齢者交通安全「ハンドルぐるぐる体操」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/TAISOU/>

\*5 「交通安全未来創造ラボ」に関する詳細はこちらをご参照ください。 <https://www.nissan-global.com/JP/SUSTAINABILITY/SOCIAL/SAFETY/HELLOSAFETY/LAB/>

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集				
社会性に関する方針・考え方	人権	交通安全	ダイバーシティ、エクイティ & インクルージョン	製品安全および品質	サプライチェーンマネジメント	人財育成	労働慣行	従業員の健康と安全	地域社会への貢献

日産グローバル本社ギャラリーでは、年間を通して、日産PRスペシャリストより「おもしろライト運動」のプレゼンテーションを毎日夕暮れ時に実施しています。

こうした活動を通じて、「おもしろライト運動」は市民の間に着実に浸透しています。

### 「交通安全未来創造ラボ」

本ラボでは、大きな社会問題となっている高齢ドライバーの交通事故削減を優先課題として取り組んでいます。今年は昨年度開発した「有効視野\*1計測システム」について高齢ドライバーに参加いただいた評価実験や、歩行者の服装色に関するフィギアと実車による視認性評価実験などを行いました。研究成果は随時公表していきます。



歩行者の服装色に関するフィギアと実車による視認性評価実験



リアルとメタバースをつなぐ「ハンドルぐるぐる体操」

また「ハンドルぐるぐる体操」を広く知っていただくため、①全国オンライン体験会と②銀座にある「NISSAN CROSSING」とメタバース上のバーチャルギャラリーをつなぎ、リアルとバーチャルで同時に体験会を実施しました。これからも高齢ドライバーに健康で長く安全に運転してもらえるためのソリューションを創出、発信していきます。

### 新しいモビリティを活用したまちづくりの実証実験

日産は、福島県浜通り地域にて、オンデマンド配車サービスの実証実験「なみえスマートモビリティ」に取り組んでいます。地域活動を支えるための交通基盤となる新たなモビリティサービスの構築に向け、今年度は、通年にわたる実証実験を通して、今後の事業化を見据えた公共交通サービスの検証を行います。2022年10月からは、実商業店舗

向けの「ミニデジタル停留所」を導入、利用者の利便性向上と拡大を図るとともに、商業店舗への送客を支援します。さらに2023年1月、「なみえスマートモビリティ」の運賃を有償化し、事業化に向けた最終段階の実証実験フェーズへ移行しました。今回の有償化では、運賃を伴うサービスへの利用者や地域の受容性を検証するとともに、今後のサービス拡充も含めて、人口密度の低い地域でも持続可能なモビリティサービスの事業化スキームを構築していきます。なお、本取り組みは2022年10月、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」を受賞しました。



なみえスマートモビリティ

\*1 有効視野とは、必要なものを識別できる範囲をさします。